

松嶋夜話 卷之下 64

〔原文〕此夕天童法性二長老出而伺候

〔訓読〕此夕、天童法性の二長老出でて伺候す

〔原文〕余爲二小師重言白話曰

〔訓読〕余二小師の為に重ねて言いて白話して曰く

〔原文〕山僧今秋氣仙遊行

〔訓読〕山僧今秋氣仙に游行し

〔原文〕不料有結縁

〔訓読〕料らず、結縁有り

〔原文〕而出此三千餘人戒子矣

〔訓読〕此の三千餘人の戒子を出づ

〔原文〕余仍而顧

〔訓読〕余仍て顧みるに

〔原文〕二十年前有燕山日讀夢憲國師語錄塔銘之中曰度戒者二萬人

〔訓読〕二十年前燕山に有る日、夢憲國師の語錄塔銘の中に、度戒の者の二萬人と曰ふを讀む

〔原文〕意而末代戒法荒矣

〔訓読〕意へらく末代の戒法荒れる

〔原文〕若我有衆緣今生度一萬人可供佛恩矣

〔訓読〕若し我衆縁有れば、今生に一萬人を度せば、佛恩に供すべしと

〔原文〕曰是古人仰於泰山之意也

〔訓読〕是、古人泰山を仰ぐの意を曰ふなり

〔原文〕歷八九年授戒漸二三千人許

〔訓読〕八九年を歴て、授戒

〔原文〕余因知時機不熟

〔訓読〕余因りて知る、時機熟せず

〔原文〕難爲及萬人

〔訓読〕為に萬人に及び難し

〔原文〕非不肖所度量覃矣

〔訓読〕不肖、度量の覃ふ所に非ずと

〔原文〕後辛亥之秋依慈恩之請之牧山山下石巻縣湊之津

〔訓読〕後、辛亥の秋、慈恩の請に依って、牧山の山下の石巻縣の湊の津に之きて

〔原文〕承慈恩廣濟禪昌三寺請

〔訓読〕慈恩、廣濟、禪昌の三寺の請を承りて

〔原文〕一七日間說戒登于戒壇者凡五千七百四十餘人

〔訓読〕一七日の間、說戒、戒壇に登る者、凡そ五千七百四十餘人

〔原文〕復明年壬子九月在于松島吾山

〔訓読〕復ま明年壬子九月、松島の吾山に在り

※吾山…地名？

〔原文〕啓大戒會

〔訓読〕大戒會を啓く

〔原文〕合山諸位長老及禪師侍者九十二頭近村遠浦道俗男女共八百三十三人悉得度脫

〔訓読〕合山の諸位の長老及び禪師の侍者九十二頭、近村遠浦の道俗の男女共に八百三十三人悉く度脫を得

〔原文〕仍自享保六年辛丑至于十七年壬子

〔訓読〕仍て享保六年辛丑より十七年壬子に至る

〔原文〕此間受戒法者一萬一百八十五人

〔訓読〕此の間、戒法を受ける者、一萬一百八十五人

〔原文〕已滿一萬貢了

〔訓読〕已一萬貢に満ちて了る

〔原文〕似遂取初一念

〔訓読〕取初の一念を遂るに似る

〔原文〕仍就于松島經島見佛上人納經之地

〔訓読〕仍て松島の經島の見佛上人が經を納める地に就く

〔原文〕彫造一丈二尺餘五蓋九輪之石塔一基

〔訓読〕一丈二尺餘、五蓋九輪の石塔一基を彫造して

〔原文〕證明萬人戒子菩提妙果

〔訓読〕萬人の戒子の菩薩の妙果を證明す

〔原文〕鎮於松島江上之風水云

〔訓読〕松島江上の風水を鎮すと云う